

- 病院長のご挨拶
- 小児歯科外来 医療チーム功労賞受賞
- 歯科技工部 (Real Mode Studio) 「リアルモードスタジオ」
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み <第1回>
- 改修工事に伴う1階待合ロビーの足場設置について

column

スポーツ歯科外来

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み <第1回>

スポーツ歯科外来では、スポーツを行うすべての人々の口・歯・顎について、健康の維持・管理・回復・増進を行っています。



顎を骨折したラグビー選手用のフェイスガード

取材にうかがった日は、ちょうど高校生のラグビー選手が顎の骨折後に使用するフェイスガードの相談と治療に来ていま



スポーツ歯科
歯科アレルギー
外来

した。新幹線で約2時間かけてご家族と一緒に受診。使用中のフェイスガードの修理とフィット感のチェックを受け、さらには公式試合でのフェイスガードの着用の許可について主治医の中禮(ちゅうらい)宏先生と相談していました。

スポーツ歯科外来ではジュニアからシニア、愛好家からトップレベルの選手まで、年齢や競技レベル、種目も様々な患者さんに対して、右記のような診療を行っています。所属する多くのスタッフが日本スポーツ歯科医学会認定医、マウスガードテクニカルインストラクターや「日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト」などの資格を有する経験豊富な歯科医師です。

スポーツ歯科外来のおもな診療内容

1. スポーツのためのデンタルチェック(健診)
合宿先や遠征先の歯痛等、突然のお口のトラブルを防ぐために、歯とお口のケアに気を付けるアスリートが最近増えています。こうしたスポーツのための口腔ケアは「デンタル・コンディショニング」と言われ、シーズンオフ時の定期健診のみならず、国体や高校総体など大会参加時、海外遠征前に行うことが効果的とされています。
2. むし歯、歯周病、親知らずなどの一般的な歯科疾患に関する相談・応急処置・治療
3. 歯のかみ合わせ不良、食いしばりや歯ぎしりによる歯のすり減り、また顎関節症に関する相談・応急処置・治療
4. スポーツ外傷事故による歯の破折・脱臼・脱落、顎の骨折などに関する相談・応急処置・治療
5. カスタムメイド・マウスガード(マウスピース)の相談・治療
6. カスタムメイド・フェイスガードの相談・治療

改修工事に伴う1階待合ロビーの足場設置について

待合ホール天井改修工事に伴い部分的に足場が設置されています。ご来院の皆様には大変ご迷惑をおかけしていますが、引き続きご協力をお願い致します。

足場設置期間(予定):平成30年11月~平成31年2月末頃



代表電話番号 03-3813-6111 (歯学部附属病院とお伝えください)
診療日 月~金 初診受付 8:30~10:30
休診日 土、日、祝日と年末年始(12月29日~1月3日)

初診予約デスク: 03-5803-4300
予約受付日時: 平日 12:00~16:00

編集発行: 東京医科歯科大学歯学部附属病院(〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45)

地域歯科医療連携センター広報誌編集委員会 総合診療科講師 磯波 健一/看護部副看護師長 長浦 真由美/歯科衛生保健部 宮本 洋子
業務課 大秋 智美/広報部特任講師 宇山 恵子(撮影)/デザイン SOYA



医療チーム功労賞「医療小児病棟へのFRIDAY 往診と周術期口腔機能管理」(小児歯科外来)



歯科技工士の作業風景

ご来院の皆様へ

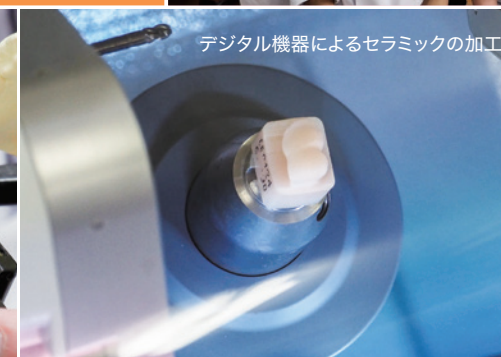
本院は大学附属病院であることから、理念として「優れた医療人の育成に努め、患者さん一人ひとりにあった最高水準の歯科医療を提供します。」を掲げています。すなわち、良質で安全な歯科医療を提供するだけでなく、教育病院として将来の歯科医療を担う優れた医療人を育成すること、先端的歯科医療のための臨床研究や各種治験を推進することも本院の重要な使命であることをどうかご理解下さい。



歯科技工部のスタッフ



スポーツ歯科外来が製作したマウスガード(マウスピース)



デジタル機器によるセラミックの加工



歯学部附属病院前に咲く山茶花

病院長のご挨拶

東京医科歯科大学歯学部附属病院
病院長 若林 則幸



当院をご利用いただき、ありがとうございます。現在改修工事を進めておりますが、ご利用になる皆様の安心・安全を第一に考え、細心の注意を払いながら安全対策に関するご案内やご誘導をしております。ご不便をおかけしますが、ご協力の程、お願いいたします。

今回の病院広報誌では、小児医療を支える地道な取り組みで医療チーム功労賞を受賞した小児科外来、全国で最大の規模と最先端の技術を誇る歯科技工部、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けてニーズが高まるスポーツ歯科外来についてご紹介しますので、ぜひご覧ください。



受賞報告

小児歯科外来

小児歯科外来の取り組みが「東京医科歯科大学医療チーム功労賞」を受賞

病院内で診療の活性化、高度化、効率化に貢献するプロジェクトを行ったグループを表彰する「東京医科歯科大学医療チーム功労賞」に小児歯科外来を中心としたチームの取り組みが選定されました。

今回の受賞は、小児歯科外来スタッフが医学部附属病院小児科病棟に毎週金曜日に定期往診を行い、入院中の子どもたちの歯科診療と周術期口腔ケア^{*}を継続して行ったことが評価されたものです。東京医科歯科大学医学部附属病院小児科には小児がんや小児難病のお子さんが入院しており、小児歯科外来は従来より往診を行ってききました。これは入院中のお子さん方においては、むし歯が全身の状態を悪化させ、治療の邪魔をすることが知られていたからです。また、病気そのものや抗がん剤治療、放射線治療に伴い生じる口内炎、口腔の乾燥、感染症、吐き気、味覚の異常などにより、食事が困難になるリスクもあります。

これらのトラブルを生じさせないためには、治療中の病気と成長発育に応じた口腔ケアが有効であることがすでにわかっています。したがって、定期的な往診を続けることは、小児歯科外来を受診できない患者さんのお口のトラブルの予防と早期発見・早期治療を可能にしました。

もし、歯やお口に問題が生じたお子さんが入院された場合は、一刻も早く解決するために、小児歯科外来スタッフが伺います。具体的には小児歯科専門医と歯科衛生士が、専用診療用機器と口腔ケアグッズを搭載したワゴンを持参して病室に往診し、歯科診療と口腔ケア指導を行っています。また、小児科病棟での「歯みがき教室」も開催しています。子どもたちが早く元気になれるように健全なお口づくりを小児歯科は応援します。



往診で指導に用いる口腔ケア用品(上)
小児科病棟に持っていく口腔ケアグッズを確認するスタッフ(中)
情報共有をはかるために月1回開催する往診ミーティング(右)

^{*}周術期口腔ケアとは
周術期口腔ケアは、手術後の誤嚥性肺炎などの合併症を防ぐために行う、手術前からの口腔管理です。

診療科紹介 歯科技工部



細かな形や色は最終的には手仕上げで行います

最先端技術に患者さんの気持ちを形にする 職人技



大学病院で日本最大、最先端の技術を有する当院の歯科技工部について歯科医師の鈴木 哲也 歯科技工部長、歯科技工士^{*}の松原 恒 歯科技工部技師長に聞きました。

当院の歯科技工部にはスタッフが30名おり、病院の歯科技工部としては日本最大規模です。さらに最新のデジタル機器を活用したインプラント装置やクラウン(冠状の人工歯)の製作施設「Real Mode Studio (リアルモードスタジオ)」も2018年5月に設置されました。これによってセラミックのクラウンやインプラント装置のほか、様々な歯科治療が迅速に、高品質で行うことができ、従来法ではかなわなかった新しい材料の導入や安定した供給など生産性の向上や安全な構造設計の評価が可能になりました。

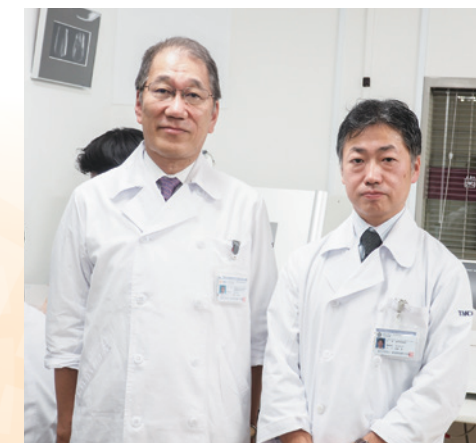
何といても当院の最大のメリットは、デジタルデータでは伝わらない「患者さんの気持ちや感覚、希望や要望」を経験豊富な歯科技工士が診療室に行って直接確認することができる点にあります。これは診察室と歯科技工部が同じ病院内にあるため実現しています。歯科技工士が直接的に対面して、患者さんのリアルな気持ちや感覚などのアナログな情報を読み取り、それを製作工程に反映することで、より満足度の高い装置を作るように取り組んでいます。

当院では、他の施設では難しいとされる先天的もしくは後天的に損なわれた症例に対しての口腔機能の回復、維持のために必要な装置の製作および歯科技工技術の開発、研究も推進しています。

^{*}歯科技工士とは…歯科医師の指示のもとで、患者さんのお口の中に入れる様々な装置(冠、ブリッジ、義歯、矯正装置など)を作る国家資格を有する歯科医療従事者です。



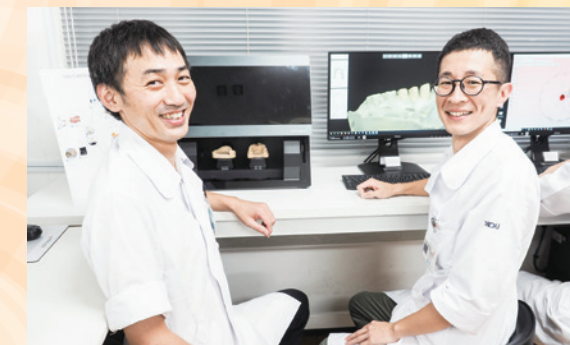
歯科技工部 Real Mode Studio「リアルモードスタジオ」



鈴木哲也歯科技工部長(左)と松原恒歯科技工部技師長



歯科技工士がコンピューター上で設計を行っています



モデルスキャナーによる、患者さんの口腔のデータの取り込み